

今西泰起 (IMANISHI, hirotake)

## 陶芸家

2004 年                    生物学類 入学  
2008 年～2012 年        生命環境科学研究科



### 昨日 (過去) …

筑波大学第二学群生物学類に入学したのは2004年。卒業研究から博士課程終了まで、林純一教授の研究室にてミトコンドリアを中心とした研究を行っていました。林教授の研究室を初めて訪れたのは大学に入学してすぐだったと思います。大学入試の面接の際に、“ミトコンドリアについて興味がある”という話をしたら面接官であった沼田治教授に“ミトコンドリアを研究している林純一というおもしろい先生がうちにはいる”と教えられたのがきっかけでした。

林先生のもとで研究の基礎や物事の考え方など、数多くのことを学びましたが一番深く心に残っていること。それは、「金にはならないかもしれない。でも、知的好奇心、知りたいことを知ろうとすること、“pure science”が一番大切である。」と仰っていたことです。

### 今日(現在)・・・

筑波大学で生物学の研究を行っていた私が、今は陶芸を生業とするために作品作りを行っています。信楽で2年、陶芸の基礎勉強を行い、現在は石川県で九谷焼の上絵付けの技法を自分の作品に生かすべく勉強をしています。

“全く違うジャンルなのに、よく決心したね”、“博士号まで取ったのに勿体ないね”とよく言われます。しかし、私は生物学の研究も陶芸作品の制作も共に、創造的（クリエイティブ）な世界であると考えています。また、陶芸における粘土の調整、釉薬の調合、窯の焼成などの試行錯誤は科学における実験と似通った部分が多くあり、大学で学んできたことは作品を作っていくうえでの強みであり、欠かせないものであると考えています。

### 明日(未来)・・・

私は、これからも常に新しいことを学び、自己の内面を陶芸という手段を使って具現化していきたいと考えています。大学時代に林先生がおっしゃっておられた“pure science”と同じような概念である、「自分が作り、この世に生み出したいものを追求する。“pure ceramics”を胸に真摯に制作を行う。」ということを一に考えていきたいと思っています。

これから大学に入ろうと考えているみなさん、そして今大学で学んでいるみなさん。どのような事であっても、学ぶという事は自分の幅を広げる手段だと思っています。そして学びの成果や経験は将来思いがけない場面で役に立つと思います。たとえ辛くてもどのような事も中途半端にせず、初心を忘れず、挑戦することを皆さんにはお勧めしたいと思います。



作品1 : 作品名 Differentiation (金沢 21 世紀美術館での展示) 秋篠窯の後継者 :

## 陶芸家となった理学博士

名誉教授 林 純一

卒業研究で研究室志望者と面談した際、博士課程進学希望者がいるということは大変有り難いことで、彼らのおかげでその後の研究が飛躍的に進展した。逆に心配なことは学位取得後の彼らの進路である。修士課程修了者と違い、博士課程修了での就職は狭き門だからである。ただ、これまでを振り返ると結果的には彼らのほとんどが大学や研究所に見事に就職を決め、現在も研究者として大活躍している。

そんな学生たちの中で一人だけ就職の心配をする必要のなかった男がいた。今西泰赳。陶芸の伝統的価値観を打ち破った秋篠窯の今西方哉の御曹司である。彼のもう一つユニークな点は海外経験が豊富なこと。これを活用しマンチェスター大学交換留学生のチューターとして、また白岩善博 前系長が主催したアジア・オセアニア生物系大学院生国際交流 AsOBiNet のリーダーの一人として幅広い交友関係を構築した。

もちろん本業のミトコンドリア研究も精力的に行った。高校時代からミトコンドリアに興味を持っていたこともあり、在学中の研究成果は高く評価され日本学術振興会特別研究員に採用された。さらに日本ミトコンドリア学会第 10 回年会 Young Investigator Award、新学術領域研究「自然炎症」第一回学術奨励賞など少なくとも 4 つの賞を獲得して、2012 年 11 月に飛び級で博士（理学）の学位を取得し卒業した。

一転して今は若き陶芸家として修行の日々である。野球や相撲等のスポーツ選手はもちろん、歌舞伎役者も幼少期から英才教育を受ける。かつて今西の卒業式にいらしたご両親に陶芸家もそうではないかと尋ねたことがある。お父様は一切そのような心配はしておらずむしろ今は最先端の研究を存分に味わわせてほしいという。彼は科学の世界で己の好奇心に身を任せた自由な発想と独創性を鍛えたのである。

現在彼はミトコンドリアが作り出す生命エネルギーをモチーフとしたユニークな作風に磨きをかけていると聞く。以前彼の初期の作品としてぐい呑みと一輪挿しをもらった。一輪挿しは母の遺影の前にあり、ぐい呑みは每晚楽しく使っている。